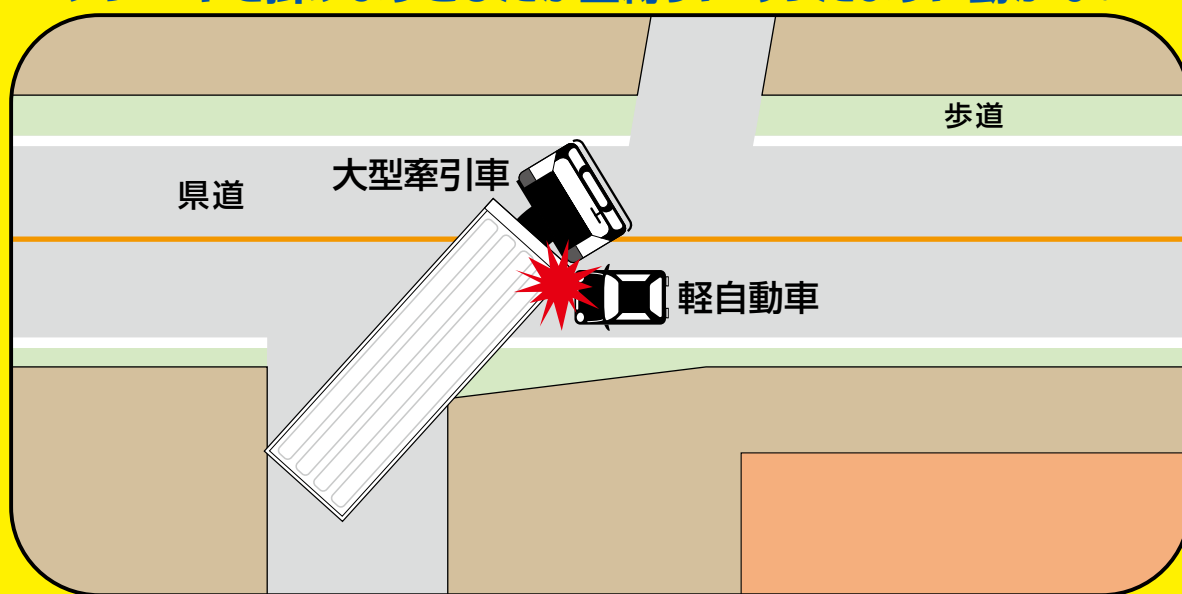


大型牽引車と軽自動車の出会い頭

～ブレーキを掛けようとしたが金縛りにあったように動かない～



事故事例ニュース

第277号

四国交通共済協同組合
安全対策部
坂出市番の州公園6番6号
(安全対策部直通)
0877-85-7992
電話0877-44-4416代

どのような場所か…

直線の県道に市道が交差。
県道は優先道路、ほぼ直線で見通しが良い。
街灯もなく、新月で真っ暗な状態。

どのような事故か…

21時過ぎ頃、市道から県道へ右折していた大型牽引車と、県道を直進していた軽自動車が出会い頭衝突した事故。
大型牽引車のヘッドがセンターラインを越えたあたりで軽自動車のライトを視認。
軽自動車はヘッドライトを下向きで走行。

原因は……

大型牽引車：非優先道路から優先道路に出る時に十分な安全確認・判断をしていなかった。
軽自動車：ヘッドライトを下向きにしていたため事故現場手前30m位の地点まで大型牽引車を発見できなかった。

この事故を防ぐためには…

咄嗟の回避動作ができない場合もある

大型牽引車

体感速度で10～20km/hで右折中、右方からのライトを確認。加速して回避も困難と考え軽自動車の減速を願い注視しつづけた。
大型車等、急な回避の難しい車両は十分な安全確認が必要です。自車の特性を十分に確認してください。

軽自動車

下向きライトで走行中、大型牽引車を発見し、急ブレーキをかけたが、金縛りにあったかのように足が動かずブレーキが掛けられなかった。
ライトの向きを上向きにし、早期の危険発見と落ち着いて対処できる速度で運転してください。夜間や見通しの悪い道は、特に減速を。

《事故防止上の注意点》

咄嗟の場面では極度の緊張からくる硬直や判断ミスがあります！

- 前方の状況を早期に確認するために前照灯のこまめな切り替え。
- 夜間や見通しの悪い道等は慌てず行動できる速度で走行。
- 危険回避は咄嗟の状況になる前に、事前に予測回避。
咄嗟の場面では、年齢・経験・性格で行動が大きく変わります。

行動は日々の意識が生きとける